

## 日本の国立大学の学生寮の現状 —教育的側面に着目して—

歌代 優

大学の学生寮には安価で安全な寝食の場を提供するという経済的な側面だけでなく共同生活を通じた人間形成の場という教育的な側面がある。日本の大学の場合、生活の場と教育の場は切り離されて考えられることが多かったが、近年では教育的側面を考慮した上で学生寮を整備して、大学の魅力の一つにしていこうという動きがみられる。教育的側面を考慮した上で整備していくには、建築計画的なハード面と教育活動の支援であるソフト面の両面の充実が必要になる。しかし、とくにソフト面に関しては、どのような要因が学生寮の教育的役割に影響を与えているかを示す研究が見られず、また、ハードやソフトの環境面だけでなく、社会的スキルなども個人の特性も影響するのではないかと考えられる。

学生寮における教育的役割は、他者との関わり合いが前提となっている。そこで本研究では、学生寮内での他者との関わり合いに関する行動には個人の社会的スキルや動機などの要因が影響を与えているのではないかと、また、環境面は入寮後の行動や意識に媒介効果を与えるのではないかとという仮説をもとに、学生寮の内での他者との関わり合いに関する行動に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。

研究方法としては、大学の学生寮に住んでいる学生に対して質問紙調査を行い、共分散構造分析を用いて、学生寮内での他者との関わり合いに影響を持つ要因を探った。質問紙の内容は社会的スキルと入寮動機、学生寮内の環境とその利用、寮生同士の交流頻度、現在の学生寮での行動の達成度の自己評価、大学生生活全体の幸福度についてである。共分散構造分析では、個人の要因、環境、入寮後の行動・意識という3つの潜在変数をおいたモデルを作成し、変数間の直接的な効果と間接的な効果を検証した。

分析の結果、社会的スキルや入寮動機という「個人の要因」から、交流行動や達成度、幸福度という「入寮後の行動・意識」へのパスは有意であった。つまり、社会的スキルや高い入寮動機を持っている人は入寮後の他者との関わり合いは多い。また、居住形態、談話室の有無、イベントの有無という「環境」から「入寮後の意識や行動」へのパスは有意傾向であった。特にイベントの有無は友人量、達成度に影響を与えていることが明らかになった。なお、「個人の要因」が「入寮後の行動・意識」に与える影響の方が、「環境」が入寮後の行動や意識に与える影響に比べて大きかった。また、今回の結果からは環境が入寮後の行動や意識に媒介効果を与えているということはわからなかった。

(指導教員 歳森敦)